

地名：オキリカプ／o-kirikap／オキリカッブ川

川尻・掻^かき混ぜる

音江地区にある稲見山の東側の川で、今でもオキリカッブ川と呼んでいます。

アイヌ語のオキリカプ「川尻・掻き混ぜる」が語源で、鮭の産卵時の様子を示しているようで、鮭の産卵場があったようです。



【オキリカッブ川】

地名：ナイタユペ／nai-ta-yupe／内大部川

沢・の鱒^{ちょうざめ}鱧鮫

アイヌ語のナイタユペは「沢・の・鱧鮫」の意味があります。石狩川で捕った鱧鮫を、舟で沢へ運び入れて陸に上げたので、この地名がついたと考えられています。



【内大部川】